



Japan Network for Climate Change Actions

一般社団法人 地球温暖化防止全国ネット

学童保育を活用した小学生への
気候変動教育プログラムの
開発と指導員育成

事業報告書



 2016～2018年度（平成28～30年度）地球環境基金助成事業



Index

はじめに / 事業概要	P.03
開発プログラム① 力を合わせて環境マークを集めよう!	P.04
開発プログラム② こよみニストになろう! ~ハッケン、二十四節気~	P.06
プログラム実施事例紹介	P.08
プログラム実施結果レポート	P.10
事業プロセスレポート	P.12



はじめに

夏の異常高温や短時間集中豪雨、冬の大規模な大雪被害など、全国各地で気候変動に起因していると考えられる異常気象が多発している近年の日本列島。2016年に発効したパリ協定において、日本は温室効果ガス排出量を2030年までに2013年比で26%削減することを目標に掲げています。なかでも、排出量が増加傾向にある家庭部門においては、約40%削減という大きな削減目標を掲げています。このような背景から、家庭を中心とする市民の意識変革・行動変容はますます重要となっており、具体的かつ実効性のある対策の実施が急務となっています。

一般社団法人地球温暖化防止全国ネットは、環境大臣より「全国地球温暖化防止活動推進センター（JCCCA: Japan Center for Climate Change Actions）」に指定され、その一環で、参加体験型のプログラムやツールを使った地球温暖化防止のための環境教育に関する業務を長年に亘って実施してまいりました。

しかしながら、そのプログラムについては、最新の地球温暖化問題の知見などが組み込まれているものの、若年層を中心とした一般市民に普及・啓発するにはわかり易いとは言いがたく、家庭生活の場において継続的に

楽しく実践でき、行動変容に結びつくプログラム事例は非常に少ないことが大きな問題点となっていました。

そこで、その問題を打破するために、若年層の子どもが集まる場、特に近年、共働き世帯が増加する中で需要が伸びている「学童保育」において、実効性のあるプログラムを広めて推進していくことを目指し、地球環境基金の助成を得て「学童保育を活用した小学生への気候変動教育プログラムの開発と指導員育成事業（通称：学童保育PJ）」を立ち上げ、現場で活用していただくためのプログラム・教材を作成し、その普及を推進してまいりました。

本事業の実施にあたっては、環境教育・社会教育・学童保育業界等、多方面の有識者からなる「事業推進委員会」及び「プログラム開発ワーキンググループ」を設置し、事業実施の方針、プログラム開発と展開、その評価等について、ご指導・ご助言をいただきました。

事業推進委員会をけん引された都留文科大学の高田研教授をはじめ、事業展開に多方面からのご理解・ご協力をいただきました多くの個人・団体・企業の皆様と各分野の専門家の方々に、心より感謝申し上げます。

事業概要

目的

2016～2018年度の3年間の事業で、学童保育の場において、小学生低学年を対象に地球温暖化防止への自発的な行動が普段の生活の中で当たり前になることを目標として、気候変動教育プログラムの構築及びツールの開発を行い、実施および評価の取りまとめを行う。

実施内容

2016年度（平成28年度）

2017年度（平成29年度）

2018年度（平成30年度）

調査・
実態把握

- ・ヒアリング調査
- ・アンケート調査
- ・プログラム開発準備

プログラム
開発・
試行実施

- ・試行実施
- ・評価・ふりかえり
- ・改善

実施・
展開・評価

- ・全国展開
- ・行動変容調査

開発プログラム①

環境マーク
プログラム

力を合わせて 環境マークを集めよう!



かんきょうマークずかん

ポスターに掲載された 24 種類の環境に関するマークについて、マークの正式名称や意味、役割や見つけられる商品・サービスなどについて、わかりやすく解説された小冊子です。

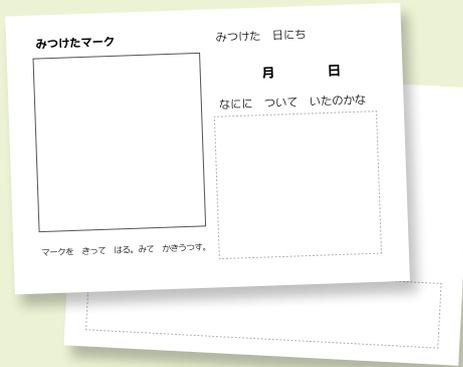


ポスター (A2サイズ)

普段、子ども達が集まる場所に掲示して、子ども達の興味付けを行うもの。環境に関するマークが、リサイクル系、森林系、エネルギー系など、7種類のグループに色分けされた 24 種類が掲載されています。見つけたマークをチェックする欄、グループの名称を書きこむ欄もあります。

生活の中にある「環境マーク」を集めよう

さまざまな商品・サービスについている「環境マーク」を、子ども達が力を合わせて探してくることを通して、身のまわりに環境に関するマークがたくさんあることに気づき、共有するプログラムです。また、それらは、どのような意味を持つマークなのか、なんのために使われているマークなのかを知り、背景にはどのような地球温暖化問題をはじめとした環境問題があるのか、考えるきっかけを提供し、今後の生活において、環境配慮型購買行動や3R促進行動などの行動変容を促す内容となっています。



マークカード

マークを見つけた際に使う、ミニワークシートです。見つけたマークを切り抜いて貼る(または書き写す)欄や見つけた日付、何についていたかを書きこめる欄があります。ひとつのマークに対し、1枚使います。



トライアルリーフレット

マークを探す際に使う、持ち帰り用のリーフレットです。このリーフレットとマークカードをセットにして子ども達に渡します。

夏休みの自由研究として活用できます

時間に余裕があり、子ども達の探求心も深まる夏休み。学童保育での実施を通して自由研究として発展させ、宿題提出につながることを可能とする補助教材がついています。子ども達が自主的に取り組めるよう促す「自主学習型」、子ども達と近くのスーパーや商店街に出かけるなどの「短期集中イベント学習型」など、やり方に合わせた実施の手引きが付属しています。



使い方の手引き (指導者用)

実施の際の簡単な流れや声かけの仕方、実施事例や、環境マークが見つかる商品やサービスなどが書かれた、指導者用の手引きです。



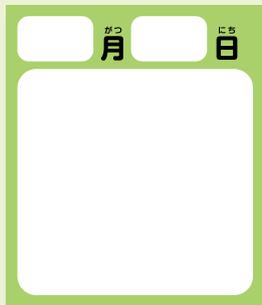
学年別 自由研究の進め方 (児童用)

マークカードと模造紙を使った自由研究の進め方、まとめ方が書かれた、児童用のシートです。子ども達の普段の生活・学習習熟度に合わせて、低学年から高学年まで4つのシートをご用意しています。

こよみニストになろう！ ～ハッケン、二十四節気～

二十四節気シール

二十四節気の変り目を書いて使うシール。二十四節気の期間がそれぞれ、書き込めるようになっています。



季語ハッケンカード

身のまわりで季節を感じるものを見つけたときに書きこむカード。見つけた日にちや見つけたものを絵で描いたり、シールを貼ったりして使います。



誕生日カード

参加者のお誕生日を書きこむカード。日にちと名前を書き、自分の似顔絵や写真を貼って使います。

二十四節気ボード

普段、子ども達が集まる場所に掲示し、二十四節気の期間にあわせて、シールやカードを貼る台紙です。



つばめ



すいか



どんぐり



初雪

季語シール

季語ハッケンカードと合わせて使うシール。生きものや食べ物、草花や天気など、72枚セットになっています。



お天気シール

猛暑日や真夏日、台風や雪、冬日や真冬日など、特別な天気を記録するのに使うシールです。



プログラム実施事例紹介

開発プログラム① 環境マークプログラム

力を合わせて環境マークを集めよう！

実施事例紹介
1

お店探検、まち探検を通してマークを発見



プログラム実施者 (学童保育指導員)の感想

地域のスーパーやコンビニなど、自分達の住む「街」を探検しながら子ども達と一緒に身近な環境マーク探しをしました。お店の方にも地域における社会教育の一環としてご理解をいただき、積極的に受け入れてくださいました。地域とつながるきっかけにも最適です。



体験者の感想

身近なところに、こんなに環境マークがあったことにビックリしました！



実施事例紹介
2

ごみの分別ゲーム、ポスターづくりと組み合わせて



プログラム実施者 (学童保育指導員)の感想

生活の中で毎日出るごみを分別するためのリサイクル系マークに着目。生活で出ているごみを、実際にマークを見ながら分別したり、ごみ箱に表示するポスターを作成する展開にアレンジしました。生活の中ですぐ使えるので子ども達も大盛り上がりでした！



実施事例紹介
3

宝探し感覚、レベル・ランク分けで競争心を！



プログラム実施者 (学童保育指導員)の感想

他の指導員からのアイデア提案のもと、見つかりにくいマークに「レア度」を設定し、ポイント制にしてグループ対抗で競ったり、コンプリートした子には認定証を発行したりして、工夫しました。ゲーム性を取り入れて子ども達のモチベーションをアップ！



子ども達の集まる場ですぐ使える SDGs プログラムです

本プログラムは、国連サミットにおいて2015年9月に採択されたSDGs = Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標) を考えるきっかけにもつながります。「13 気候変動に具体的な対策を」の目標達成のきっかけはもちろん、「7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに」「12 つくる責任つかう責任 (持続可能な消費と生産のパターンを確保する)」「14 海の豊かさを守ろう」や「15 陸の豊かさを守ろう」にもつながります。プログラムを通して、地球温暖化防止や環境の知識のみならず、自分で調べ、チームで共有し、意見交換・発表を通して、考えるチカラやプレゼン能力も身につきます。



本事業で開発した2種類のプログラムは、目的や対象・時間によって、様々なアレンジが可能です。実施者、指導員の工夫で多様な実施展開がされた中から、いくつかのアレンジ実施事例をご紹介します。

開発プログラム② 季節感育成プログラム

こよみニストになろう！～ハッケン、二十四節気～

実施事例紹介
1

おやつの時間に合わせてクイズに挑戦！



プログラム実施者
(学童保育指導員)の感想

秋のおやつ時間に、栗を自分達でむいて食べました。あわせて行った二十四節気クイズの栗クイズに子ども達は大盛り上がり！焼き芋に合わせてさつまいもクイズを行ったり、節分や端午の節句など、季節の行事と合わせてクイズができるので、ネタづくりに最適です！



クイズを子ども達と一緒に考えて、お互い出し合ったり、他の学童保育間で共有するという仕組みがあるといいかもしれませんね。



実施事例紹介
2

お誕生日カードが大人気！



プログラム実施者(学童保育指導員)の感想

自分の生まれた節気はいつ?どんなハッケンがある季節なんだろう?とお誕生日カードを貼るのを今か今かと待ち構えている子ども。家族のお誕生日を貼ってくれる子どももいます。学童保育で行なっているお誕生日会とあわせて実施できるのも良いですね。



実施事例紹介
3

童謡(うた)と合わせて



プログラム実施者
(小黑恵子童謡記念館スタッフ)の感想

昔から歌いつながれている童謡は“こよみ”に関係するものが多くみられます。童謡をみんなで歌うイベントの後にクイズをやることもあるのですが、それを非常に楽しみにして参加されている方もたくさんいらっしゃいます。記念館の庭園で見つけられる生きものを紹介したうえで、参加者にハッケンカードを書いてもらう工夫もしています。



プログラム・開発
ワーキンググループメンバー
山口 一起

岡山市立宇野小学校学童保育
「うのクラブ」学童保育指導員
(うのクラブ運営委員会)

私たち学童保育指導員の仕事は、子ども達に寄り添うことだと思います。その中で子ども達と共に感じ、話をする事は、日々変化する天気や旬に関することが多いのではないのでしょうか。「暑かったり寒かったり」、「温かったり、冷たかったり」、「美味しかったり、まだ酸っぱかったり」。そういった何気ない会話から、子ども達との感じ方の違いや子ども一人ひとりの個性や特性を知る。

女性の社会進出と共に、学童保育利用児童数は増加傾向にあり、今後新たに指導員として子ども達と関わる方が多くなることも予想されます。ぜひこの二十四節気プログラムを保護者も交えクラブで楽しく活用し、子ども達と季節の移ろいを感じつつ成長を見守り、子ども達にとってより良い地球環境を守っていきたいと思います。

プログラム実施結果レポート

プログラムを実施いただいた全国の学童保育所、施設へアンケートを行い、プログラム（環境マークプログラム）を体験した子ども達及び家庭への影響について調査しました。調査から本プログラムの環境意識、環境行動への有効性が明らかになりました。

全国55か所4,482名が参加

(2019年1月末現在)

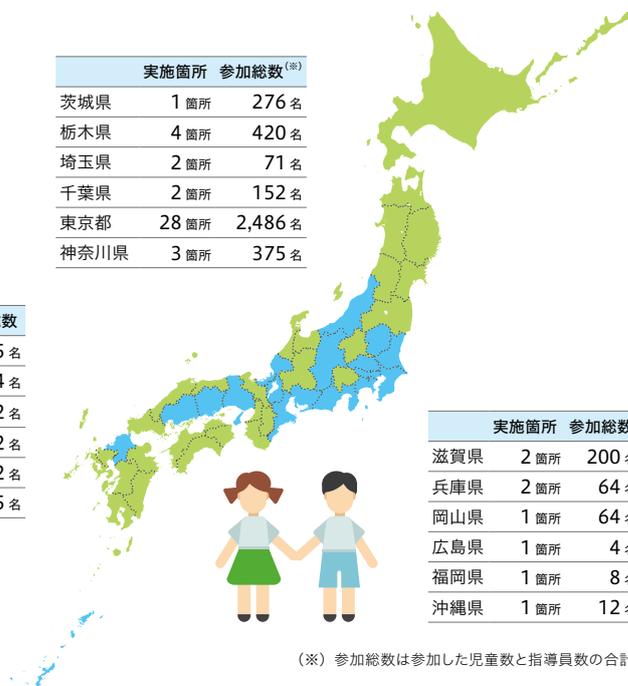
開発した2種類のプログラムは、全国の学童保育を中心に、児童館や環境学習施設、図書館やイベント、環境講座など、子ども達が集まる場所において全国55か所で実施されました。参加した児童数は4,072名、指導員数は410名、合計4,482名。

その他、全国の地域地球温暖化防止活動推進センターと地域で活動する地球温暖化防止活動推進員や地方自治体等からもプログラム見本の送付希望があり、現在、活用の検討を行っています。

実施箇所	参加総数 ^(※)
茨城県	1箇所 276名
栃木県	4箇所 420名
埼玉県	2箇所 71名
千葉県	2箇所 152名
東京都	28箇所 2,486名
神奈川県	3箇所 375名

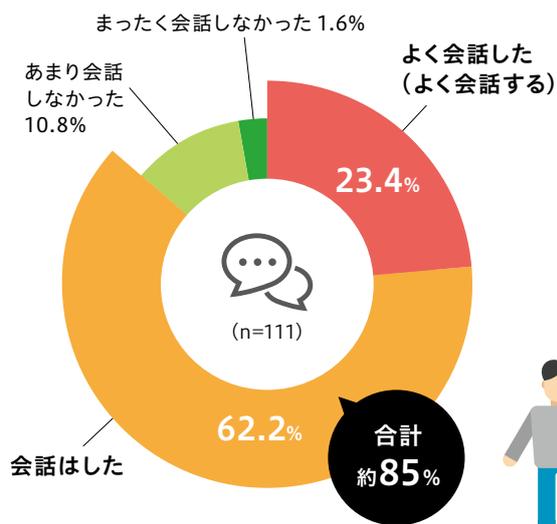
実施箇所	参加総数
新潟県	1箇所 55名
静岡県	1箇所 24名
福井県	1箇所 42名
長野県	1箇所 102名
愛知県	1箇所 42名
三重県	2箇所 85名

実施箇所	参加総数
滋賀県	2箇所 200名
兵庫県	2箇所 64名
岡山県	1箇所 64名
広島県	1箇所 4名
福岡県	1箇所 8名
沖縄県	1箇所 12名



(※) 参加総数は参加した児童数と指導員数の合計。

Q1. お子さんとの間で環境マークに関する会話をしましたか？



約85%の親子間で環境マークの会話が生まれた

「環境マークプログラム」を実施した学童保育において、参加した子ども達がどの程度関心を持ち、家庭に波及させ、家庭での実践及び意識変化・継続をもたらしたかを調べるためのアンケート調査を行いました。プログラム実施からおよそ2～3か月程度経過した学童保育の保護者111名からのアンケート回答を集計した結果、約85%の家庭において保護者と子ども達の間で「環境マーク」に関する会話が生まれたと回答しています。

指導員の声

プログラム実施後も毎日子ども達が声をかけてくれます。「あのマークをノートの裏に見つけたよ!」「ねえ、おやつ袋にもあるよ!」と声をかけられたり、「教科書にも植物油インキマークがついているんだよ!」と見せてくれたり。会話は継続しています。

保護者の声

プログラムを体験してから、より興味を持ち、探しては嬉しそうに教えてくれます。エコについて考える、いいきっかけになったと感じています。

保護者の声

長期の休みである夏休みに実施してくださったので、時間的にも精神的にも親子ともどもより深く考えられ、とても良かったです。



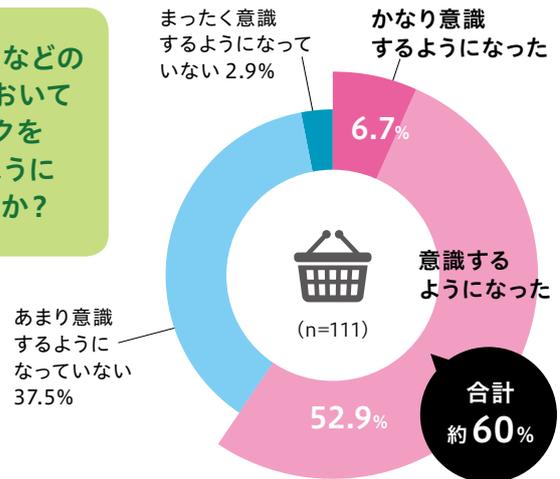
より多くの会話をした 家庭では約80%の 親子の意識に変化が！

環境マークプログラムを通して、保護者の意識がどのように変化したかを調査しました。買い物などの日常生活において、環境マークを意識するようになった家庭が約60%であり、本プログラムの実施後2～3か月を経過してもその意識が日常的に持続していることがうかがえる結果が得られました。

また、家庭において、お子さんと環境マークに関して「よく会話をした」家庭においては、約80%の親子が「かなり意識するようになった」「意識するようになった」と回答しており、学童保育でのプログラム実施を通して、親子で環境マークについて話した家庭ほど、気づきが得られ、環境配慮意識の向上・継続へと結びついていくと思われまます。

保護者の声からは、一緒に環境マークを探すことで親子の意識も変わってきている様子がうかがえました。

Q2. 買い物などの日常生活において環境マークを意識するようになりましたか？



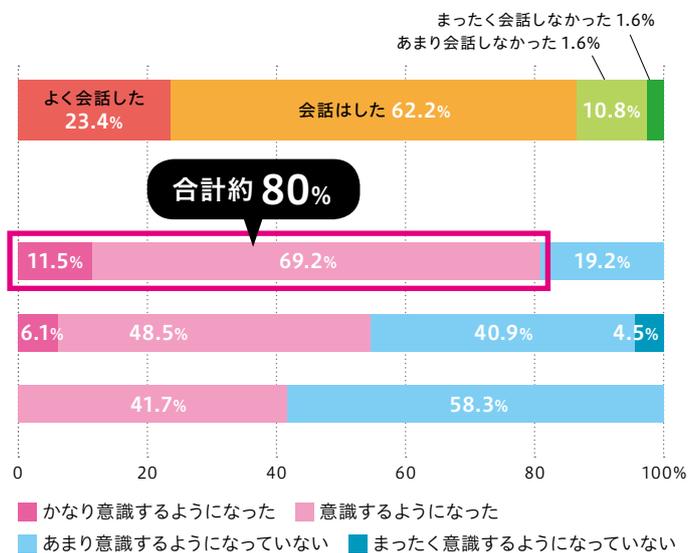
Q1 (親子間での環境マークに関するコミュニケーション度を問う設問) と Q2 (環境マークへの意識持続度を問う設問) のクロス集計

Q1. お子さんとの間で環境マークに関する会話をしましたか？

Q2 の回答

Q1で「よく会話をした」を選択した人の Q2 の回答 (n=26)

Q1で「会話はした」を選択した人の Q2 の回答 (n=66)



保護者の声

今まで関心を持っていなかったのですが、買い物に行くとき「このマーク見たことある！」と教えてくれるようになりました。子どもは楽しみながら学び、興味を持ってくれたようです。継続的に学び、更に知識を深められたらと思います。



保護者の声

“エコなマークを探す”は、まだ、我が家で継続中のようです…。外出すれば「みてみて」と商品でなく、マーク探して、いつもより時間がかかる生活になってしまいました(笑) 気づけるってすごいですね。



事業推進委員会委員長
高田 研

公立大学法人都留文科大学
教養学部地域社会学科 教授

学童保育は男女共生社会をその基盤で支えており、その内容は「保育」に留まらず、子供たちの教育空間としても重要な意味を持っている。日々子供たちと向き合っておられる指導員の皆さんの可能性に期待するところが大きい。環境教育の要点はエコロジー「つながり」で考えること。そして今までの当たり前を見直すこと「視点を変える」ことにある。「環境マークを集める」は商品(モノ)がどのように環境配慮されているのか(コト)のつながりを知ることにある。社会の動きを鳥瞰し、個々の価値形成につないでいく。「二十四節気」は、季節を表す「コトバ」を使うことで、日本の四季の世界が蘇ってくる。視点を変えることで、個々のライフスタイルを変化させることを期待している。

事業プロセスレポート

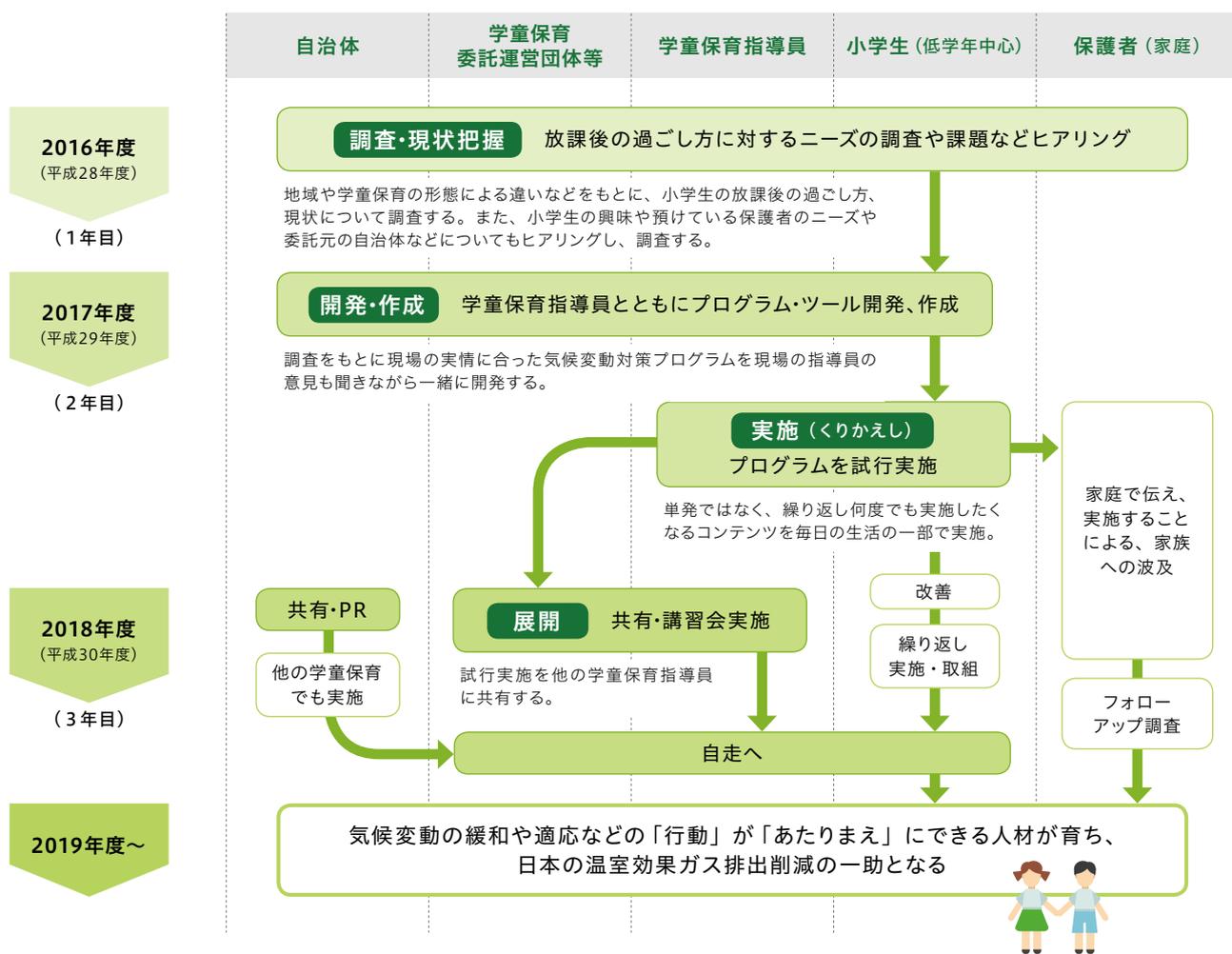
本事業は、地球環境基金の助成を得て、3か年で実施しました。

1年目である2016年度(平成28年度)は、想定される参加者(小学生や保護者)や実施・運用者(学童保育指導員、運営委託主体、自治体)に対するニーズや実態把握をするための調査に重点を置き、生活や遊びの中で継続的に実施できるプログラムの仮設計を行いました。

2017年度(平成29年度)は、プログラムの開発を行いつつ、学童保育での試行実施及びフィードバックの情

報をもとに、プログラムの改修を行いました。

最終年度である2018年度(平成30年度)は、本プログラムの実施に重点を置き、指導マニュアル等の改善と整備、実施方法や使い方等を共有する講習会等を通して全国展開を図りました。また、子ども達を通じた家庭への波及と環境配慮意識の向上・継続度の調査(フォローアップ調査)を行いました。



事業推進委員会 委員一覧

氏名(敬称略)	所属	専門
高田 研※	都留文科大学 教授	環境教育実践・指導
井澤 友郭	こども国連環境会議推進協会 事務局長	指導者育成
糸山 智栄	岡山県学童保育連絡協議会 会長	学童保育運営
鳥越 靖徳	株式会社フィールドノート 代表取締役	プログラム・ツール等 開発・制作
村上 竜一	株式会社ウィライツ 代表取締役	学童保育運営

※高田委員が委員長を務めた。

注釈:鳥越委員は2016年度10月より、糸山委員及び村上委員は2017年度より参画

ワーキンググループ メンバー一覧

氏名(敬称略)	所属	専門
神原 直也	株式会社サンキョウ・エンビックス 環境教育担当	プログラム開発
笹子 まさえ	特定非営利活動法人アクト川崎 理事 (川崎市地球温暖化防止活動推進センター事務局長)	市内学童クラブ・児童館等との連携実施
鳥越 靖徳※	株式会社フィールドノート 代表取締役	プログラム等企画
西坂 美紀	日能研「まなびわらべクラブ」(日能研イベント企画推進本部)	私立学童指導員
山口 一起	岡山市立宇野小学校「うのクラブ」(公益財団法人YMCAせとうち)	公立学童指導員

※鳥越委員がファシリテーターを務めた。

注釈:所属は2017年度当時

事業・プログラムの方向性等の検討

事業推進委員会の開催

プレ委員会	日時：平成 28 年 4 月 18 日（火） 13:00～15:00 場所：一般社団法人地球温暖化防止全国ネット会議室 議題：事業概要、事業推進委員会の委員委嘱、スケジュールについて
第 1 回	日時：平成 28 年 7 月 11 日（月） 13:30～15:30 場所：一般社団法人地球温暖化防止全国ネット会議室 議題：事業計画、検討の方向性、スケジュールについて

第 2 回	日時：平成 28 年 11 月 28 日（月） 10:00～12:00 場所：一般社団法人地球温暖化防止全国ネット会議室 議題：ヒアリング調査結果、アンケート調査結果、今後の検討の方向性について
第 3 回	日時：平成 29 年 2 月 28 日（火） 13:30～15:30 場所：あすか会議室 小川町会議室 601 号室（東京都千代田区神田小川町） 議題：プログラム試作開発ワークショップ実施報告、次年度の検討の方向性について

ヒアリング調査

学童保育の現在の気候変動対策への取組状況について調査するために、以下 8 主体の学童保育指導員及び学童保育運営自治体や委託団体、関連団体等に対し、ヒアリング調査を実施した。



No.	取材先
1	元練馬区学童クラブ指導員 杉山幸男氏、杉山真美子氏
2	全国学童保育連絡協議会
3	株式会社フィールドノート
4	東京都学童保育連絡協議会
5	日能研 学童保育「まなびわらべクラブ」
6	株式会社ウィライツ
7	港区麻布地区総合支所管理課
8	岡山市学童保育「うのクラブ/学童プレハブ-6℃作戦」

アンケート調査

学童保育に関わる保護者、学童保育指導員、運営委託団体等を対象に、放課後の過ごし方への考え方や、地球温暖化対策に関する関心について、アンケート調査を実施し、現状を把握した。

調査概要

■対象者

保護者：平成 28 年 10 月現在、学童保育等を利用する小学生を持つ保護者の方 300 名
学童保育指導員：平成 28 年 10 月現在、学童保育指導員の仕事に従事している方 100 名
運営委託団体等：平成 28 年 10 月現在、学童保育等の運営の仕事に従事している方 100 名

■調査方法

株式会社マクロミルによるインターネットアンケート

■調査実施時期

平成 28 年 10 月下旬

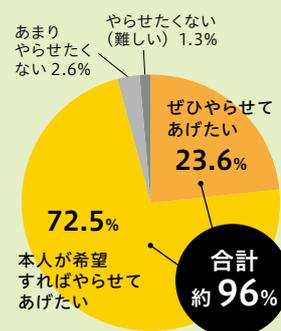
アンケート調査結果概要

プログラムのテーマとしては「環境」の関心はさほど高くはなかったものの、環境プログラムへの期待度については、96%の保護者が、ぜひやらせてあげたい、本人が希望すればやらせたいと回答した。なお、要望の高かった「遊び」「工作」「自然観察」「コミュニケーション」と掛け合わせた形での環境プログラムであれば、需要は高いと考えられた。

併せて、指導員の手がかからないもの、子ども達が率先して楽しんでやれるものであれば、学童保育の現場での導入に余地があることが想定できた。

Q. あなたは環境・エコなどをテーマとした、生活を送っていくうえで身につけることが望ましい実技的な取組やプログラムが学童保育にあったら、お子さんに取り組んでもらいたいですか。

(n=309)



プログラム開発準備 プログラム試作開発ワーキンググループの開催

日時：平成 29 年 2 月 12 日（日） 13:00～16:00
場所：一般社団法人地球温暖化防止全国ネット会議室
議題：夏休み自由研究をテーマとしたプログラムの開発について、学童保育の夏休みの現状報告と課題の発見、アイデアのブレインストーミング



2017年度（平成29年度）プログラム開発・試行実施

事業・プログラムの方向性等の検討

事業推進委員会の開催

第1回	日時：平成29年6月13日（火）13:30～15:30 場所：一般社団法人地球温暖化防止全国ネット会議室 議題：事業計画、気候変動教育プログラムの開発、今後の進め方について
-----	--

第2回	日時：平成29年9月25日（月）13:30～15:30 場所：一般社団法人地球温暖化防止全国ネット会議室 議題：プログラム開発、プログラム試行実施結果、今後の進め方について
-----	--

第3回	日時：平成30年1月22日（月）13:30～14:45 （※大雪警報発令により、短縮して開催） 場所：一般社団法人地球温暖化防止全国ネット会議室 議題：プログラム開発内容、事業報告・プログラム体験会、次年度の方向性について
-----	--

試行実施

環境マークプログラム

自由研究をターゲットとしたプログラムだったため、夏休み期間を中心に以下5主体8か所、合計166名の小学生を対象に試行実施を行った。

No.	実施場所	学童保育形態	実施日	実施の特徴
1	岡山県岡山市	小学校内学童保育	7月下旬	スーパーマーケット探検型
2	神奈川県川崎市	児童館内学童保育（3か所）	8月～9月	ポスター掲示自主取組型
3	東京都港区	小学校内学童保育	8月上旬	ごみの分別ゲームにトライ!
4	東京都荒川区	民間学童保育	8月上旬	探検&壁面に巨大グラフをつくろう!
5	東京都墨田区	児童館内学童保育	8月中旬	クイズ「何についている?」にトライ!

二十四節気プログラム

プログラム開発ワーキンググループメンバーの学童保育の現場である岡山県岡山市の小学校内学童保育及び、東京都荒川区の民間学童保育の2主体2か所、合計62名の小学生を対象に、平成29年10月より、試行実施を行った。



評価・ふりかえり・改善

プログラム開発・ワーキンググループの開催

第1回	日時：平成29年6月3日（土）13:00～16:00 場所：一般社団法人地球温暖化防止全国ネット会議室 議題：前年度試作開発「環境マークプログラム」及び通年実施「二十四節気プログラム」に関するアイデア、改善点などの意見交換
第2回	日時：平成29年7月2日（土）13:00～16:00 場所：一般社団法人地球温暖化防止全国ネット会議室 内容：「環境マークプログラム」の夏休みの試行実施に向けてのアイデア、手法の検討、「二十四節気プログラム」に関するアイデア、改善点などの意見交換
第3回	日時：平成29年11月11日（土）13:00～16:00 場所：一般社団法人地球温暖化防止全国ネット会議室 内容：「環境マークプログラム」の夏休みの試行実施結果の共有と課題抽出、「二十四節気プログラム」試行実施に向けてのアイデア、改善点などの意見交換

次年度に向けて実施拡大・連携協力の模索

プログラム体験・報告会の開催

日時：平成30年2月27日（火）10:00～11:45 場所：あすか会議室 小川町会議室 402号室（東京都千代田区神田小川町） 対象：学童保育の運営などに携わる方、指導員の方、地球温暖化防止活動推進員、地球温暖化防止活動推進センター、環境関連施設の方など、25名定員枠で募集 参加者：50名（学童指導員、環境関連施設、地域センターなど） 内容：気候変動教育プログラムの開発事業とこれまでの経緯の概要説明、プログラムの紹介、次年度実施に向けての実施意向調査アンケート記入など



事業・プログラムの方向性等の検討

事業推進委員会の開催

第1回	日時：平成30年5月14日（月）13:30～15:30 場所：あすか会議室 小川町会議室 601号室（東京都千代田区神田小川町） 議題：事業概要、事業報告・プログラム体験会の報告、今後の進め方について
第2回	日時：平成30年10月9日（火）13:30～15:30 場所：一般社団法人地球温暖化防止全国ネット会議室 議題：プログラム体験・情報交流会の実施報告、プログラム実施、フォローアップ調査について
第3回	日時：平成31年1月15日（火）13:30～15:30 場所：一般社団法人地球温暖化防止全国ネット会議室 議題：プログラム実施、フォローアップ調査集計結果と分析、プログラム体験・報告会、今後の展開について



プログラム実施の支援 プログラム体験・情報交流会の実施

第1回	日時：平成30年6月29日（金）10:00～13:00 場所：あすか会議室 小川町会議室 401号室（東京都千代田区神田小川町） 対象：学童保育の運営などに携わる方、指導員の方、地球温暖化防止活動推進員、地球温暖化防止活動推進センター、環境関連施設の方など 参加者：36名（学童保育指導員、環境関連施設、地域センターなど） 内容：気候変動教育プログラムの開発事業とこれまでの経緯の概要説明、プログラム体験、ワークショップ「プログラム実施方法を考えてみよう!」
第2回	日時：平成30年10月30日（火）10:00～13:00 場所：あすか会議室 小川町会議室 401号室（東京都千代田区神田小川町） 対象：学童保育の運営などに携わる方、指導員の方、地球温暖化防止活動推進員、地球温暖化防止活動推進センター、環境関連施設の方など 参加者：25名（学童保育指導員、環境関連施設、地域センターなど） 内容：気候変動教育プログラムの開発事業とこれまでの経緯の概要説明、プログラム実施の成果共有（学童保育での実施事例など報告）



フォローアップ調査（行動変容調査）

開発した気候変動教育プログラムの実践を通して、関心の継続と家庭での実践について各箇所での実践の反応を調べるためのアンケート調査を行った。これにより、家庭での継続実績及び参加者の行動変容度や満足度を計測し、分析した。

調査概要

■対象者

「環境マークプログラム」を実施した学童保育5ヶ所の保護者 185名（アンケート送付対象人数は185名、回答率60.0%で111名の回答を得た）

■調査方法

各学童保育指導員を通して記入式のアンケート調査用紙を配布、保護者が記入、郵送もしくは指導員がとりまとめる形で返送、回答を得た

■調査実施時期

平成30年11～12月

3か年の取りまとめと報告

プログラム体験・報告会の実施

日時：平成31年2月26日（火）10:00～12:00
場所：日本教育会館 第五会議室（東京都千代田区一ツ橋）
対象：学童保育の運営などに携わる方、指導員の方、地球温暖化防止活動推進員、地球温暖化防止活動推進センター、環境関連施設の方など
参加者：71名（学童保育指導員、環境関連施設、地域センター、企業・団体など）
内容：事業概要・プログラム実施事例紹介、ツール体験・ミニワーク、プログラム満足度・行動変化調査結果報告、総括





2016～2018年度(平成28～30年度)地球環境基金助成事業

学童保育を活用した
小学生への気候変動教育プログラムの開発と指導員育成

事業報告書

発行 平成31年3月

※この事業は、独立行政法人環境再生保全機構 地球環境基金の助成を受けて実施されたものです。

※当事業報告書内の文章・画像等の内容の無断転載及び複製などの行為はご遠慮ください。

本事業に関するお問い合わせ

一般社団法人地球温暖化防止全国ネット

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町 1-12-3 第一アマイビル4階

TEL:03-6273-7785 FAX:03-5280-8100
